JA全中

プレスリリース
令和３年１月５日
全国農業協同組合中央会
（ＪＡ全中）

＜報道関係各位＞

お家のベランダや学校で稲づくりにチャレンジ！ 今年も 27 万セットを配布します

コロナ禍でも取り組める食育体験「バケツ稲づくり」

令和３年１月 12 日(火)より先行予約申込受付開始

ＪＡグループでは「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、次代を担う子どもたちに、日本の主食であるお米や、農業への関心と理解を深めてもらえるよう、バケツを使って手軽にお米づくりが体験できる「バケツ稲づくり」事業を令和３年度も実施いたします。

種まきから収穫、脱穀、そしてお米を炊くところまで、誰でも簡単にできるのが特長です。関連資材をまとめた「バケツ稲づくりセット」＝写真を、全国の小学校・幼稚園・保育園などの教育機関、個人の皆様に無償（送料別途）でご提供します。

総合的な学習の時間や社会科の食育教材として、ご家庭では、昔の田園風景を伝える家族団らんのツールとしても活用されています。バケツ稲づくりセット配布数は、平成元年の事業開始から昨年度までの実績で 1,066 万セットを超えました。

バケツ稲づくりセット

■学校やご家庭のベランダでお米づくりを体験してみませんか

希望する学校や幼稚園、保育園、認定こども園、子ども会などの教育機関、公共施設、公益法人、自治会などからの<u>団体からの申込受付は、令和３年１月 12 日(火)より開始</u>します。<u>個人からの申込受付は、令和３年３月８日(月)より開始</u>します。

令和３年の配布は、27 万セット用意しています。配布予定数が無くなり次第、受付終了となります。ぜひ、お申し込み下さい。

＜本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先＞
ＪＡ全中 広報部 広報課　担当：林、青木
TEL：０３－６６６５－６０１１　e-mail：t-kouho.s@zenchu-ja.or.jp
＜一般のお客様からのお問い合わせ先＞
バケツ稲づくり事務局　TEL：０３－６２８１－５８２２（午前１０時～午後５時 ※土･日曜日・祝日は除く）

この事業は国産農畜産物の消費拡大を目指す JA グループの『みんなのよい食プロジェクト』の一環として実施しています。

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ

パソコン・スマートフォンからお申し込みいただけます

■セット内容	①「種もみと肥料セット(発芽率の高い種もみを選んでいます)」、②「バケツ稲づくりマニュアル(解説書)」、③「お名前シール」(児童のお名前、栽培開始日を記入して、バケツ側面に貼付できます)
■ご提供数	**27万セット**　※「バケツ稲づくりセット」のお届けは、日本国内に限ります。
■受付期間	**学校・団体・法人受付：令和3年1月12日（火）～** **個人受付：令和3年3月8日(月)～** ※発送時期：令和3年3月8日（月）以降、順次発送します。 ※配布予定数がなくなり次第、受付を終了します。（5月下旬終了予定）
■申し込み方法	**〈インターネットお申し込み先〉** **JAグループ公式ホームページ「お米づくりに挑戦Webサイト」** **https://life.ja-group.jp/education/bucket/　もしくは、 バケツ稲 で 検索 して、** **「バケツ稲づくりセットのお申し込みフォーム」から、お客様情報を入力の上、送信してください。** お申し込み受付完了後、折り返し確認メールをお送りします。 **（1）学校・幼稚園、保育園、認定こども園、子ども会などの教育機関・公共団体・公益法人の場合** **… 学校・団体用お申し込みフォーム　よりお申し込み** ※学校・団体からのお申し込みは、1 梱包につきお届け先地域別宅配料金をご負担いただきます。 送料は、バケツ稲づくりセットお届け時に「日本郵便ゆうパック」配達員に着払いでお支払いください。 **※送料は、現金の他に郵券(切手)でのお支払いが可能です。** **（2）個人の場合** **… 個人用お申し込みフォーム　よりお申し込み** ※個人のお申し込みは、全国一律 271 円(税込)の送料をご負担いただきます。送料は、バケツ稲づくりセットのお届け時に郵便配達員に着払いでお支払いください。1回の申し込みで、種もみ・肥料・お名前シールを栽培するバケツの数分(最大5セット)、栽培マニュアルを1部お送りします。 **※送料は、現金の他に郵券(切手)でのお支払いが可能です。** **（3）JA・JAグループの場合** **… JA・JAグループ用お申し込みフォーム　よりお申し込み** ※管内の学校・団体申し込みをお取りまとめ、および米消費拡大や食農教育イベントでの使用の JA・JA グループへお届けします。
■問い合わせ先	**JAグループ　バケツ稲づくり事務局** 〒110-8722　東京都台東区秋葉原2-3　日本農業新聞 TEL.03-6281-5822　　受付時間：月～金　午前10時～午後5時(土・日曜日・祝日は除く)
■主　催	一般社団法人全国農業協同組合中央会（JA 全中）
■後　援	文部科学省、農林水産省、全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会、全国連合小学校長会
■協　賛	全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、全国厚生農業協同組合連合会、(株)日本農業新聞、(一社)家の光協会、(一社)全国農協観光協会、（公社）米穀安定供給確保支援機構
■推　薦	全国小学校理科研究協議会、全国小学校社会科研究協議会、全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会、日本理科教育協会、日本理化学協会、日本生物教育会

◆お届け先地域別宅配料金(税込)◆

【100セット迄】	(税込)	【110～250セット迄】	(税込)
北海道・九州	1,300円	北海道・九州	1,530円
東北・関東・信越・北陸・東海	870円	東北・関東・信越・北陸・東海	1,100円
近畿	970円	近畿	1,200円
中国・四国	1,100円	中国・四国	1,310円
沖縄	1,350円	沖縄	1,630円

※10セットの小口申し込みは、日本郵便ゆうパケットにて送付し、全国一律 331円の着払い送料が発生します。(郵券での支払いが可能です)

詳しい内容は、下記のＱＲコードから

アクセスできます。

首をたれる稲穂

小学校での栽培の様子(群馬県)

小学校のたわわに実った稲穂(埼玉県)

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ

コロナ禍のなかでもバケツ稲づくりを積極的に取り組んでいるみなさんの声

（千葉県）松戸市立寒風台小学校

「稲のように上を、前を向いて進んでいける」一年にしたいと、初めてバケツ稲づくりに挑戦しました。小さな種もみを発芽させ、土をつくり、水の管理をしながら育てました。台風から稲を守るために屋内に避難させるなど、収穫までにはたくさんの苦労も経験し、稲刈りの時には、大きく育ち、穂をつけた稲に感動しました。収穫後も、もみすりや、精米がうまくいかず、普段食べている白いお米になかなかできないことを知りました。また、刈った後のわらで正月のしめ縄作りをして、日本人が稲の全てを使ってきたことを体験的に学ぶことができました。

学習のまとめとして、個人でテーマを設定し、今年必須化された「プログラミング学習」を取り入れて、タブレットやモニターを使ってプログラムを作って発表しました。資料は、写真だけでなく、観察日記や、理科、社会、家庭科の教科書など多岐にわたり、米作りはさまざまな教科に関連する、教科を横断した学びとなりました。

新型コロナウイルスの影響により、校外に出て学習する活動が制限される中でしたが、稲を育てて収穫するまでの一連の体験を、年間通してじっくりと学習することができました。今年一年の子どもたちの大きな希望となり続けたバケツ稲づくりでした。

（長崎県）社会福祉法人長崎恵愛福祉会 恵愛保育園

長崎市内の設立３年目の新しい認可保育園で食への取り組みとして食育を充実させていきたいと思っております。年長児は、毎日米研ぎをして炊きたての御飯を美味しく頂いております。今年度より市外の田んぼを借りて田植え稲刈り体験を予定しておりましたが、コロナの影響でバスでの移動や行事の自粛制限で中止となりました。何とか苗植え体験や稲刈りを園内で実施出来ないかと考えていたところ、この様な JA さんの取り組みに出会う事が出来ました。畑での収穫体験や実施の経験はあります。是非とも「お米づくり」の体験を子ども達にせてあげたいと願っています。

（東京都）ＪＡアグリ体験塾（ＪＡマインズ）

ＪＡマインズ(東京都)は、JA アグリ体験塾を実施し、新型コロナで休校中の子どもに自宅で農に触れてもらおうと「バケツ稲づくりセット」を配りました。参加した柳谷朱美さんと娘の南菜夏さんは、家族で自宅マンションのベランダでの栽培に挑戦しました。リモートワークを機に自宅で過ごす機会が増えた父親が育苗を担当し、水やりを朱美さんと南菜夏さんが行いました。稲を見ながらベランダで食事をするなど、家族で過ごす時間が増えたといいます。

収穫期を迎えたことを喜ぶ南菜夏さんは、新潟県魚沼市の米農家で祖父の昇さんにバケツ稲の写真を送りました。毎年、夏休みに帰省していたが今年は自粛を余儀なくされました。しかし、米作りが共通の話題となり、祖父と孫の心の距離を縮めました。朱美さんは「栽培への姿勢などから娘の成長を感じる。農地の大切さやＪＡが身近な存在であることも知った」と話しています。

（新潟県）バケツ稲栽培コンクール（ＪＡ十日町）

ＪＡ十日町は 2009 年から子どもたちへの食農教育として「どろんこキッズスクール」を開講していましたが、今年はコロナ禍で全日程が中止となりました。その代替として、非集合型の食農イベント「バケツ稲栽培コンクール」を企画し、12 人の小学生が参加しました。ＪＡでは参加者の自宅を巡回し、生育調査や鳥害対策や強風対策など、その時期に合った作業を記した手紙を子どもたちに配付し、栽培指導を実施します。参加者は 6～9 月にバケツ稲を自宅で栽培し、中干し・穂肥等水田と同様に管理しました。収穫した米は出荷米に使用される検査機器を用いて収量・品質を数値化。観察ノートに記入して、10 月下旬に開かれるどろんこキッズスクールに応募しました。受賞した児童には、同スクール校長の柄澤和久さん（ＪＡ十日町 経営管理委員会会長）から表彰状と記念品が手渡されました。

子どもたちは「僕たちの稲は１株だけど、農家さんは何千倍も管理していてすごい」と話します。保護者からも「バケツ稲を育てる子どもを見守りながら、親にとっても勉強になった。農家の大変さや収穫の喜びを疑似体験でき、ＪＡからの手紙での指導もありがたかった」という声が上がりました。